

第 18 回 NOMURA Award（特別協賛社賞）受賞者コメント

静岡県立藤枝北高等学校 大澤 利恵 教諭

受賞コメント

日経 STOCK リーグ参加の経緯

前任校で、会計コースの生徒に簿記や財務会計を教えている中で、記帳練習だけの学習でよいのか悩んでいました。そんな時、日経 STOCK リーグのことを知りました。単に株式投資をバーチャルでするだけでなく、テーマを決め、考えをまとめ、レポートを書き上げる一連の学習内容に興味を引かれ、参加するようになりました。初めて参加したチームは試行錯誤で終わってしまいましたが、その後、先輩たちが残したレポートが財産となり入選するようになると、もっと完成度の高いレポートを書き上げようと意欲的に取り組むようになりました。

日経 STOCK リーグの取り組みについて

日経 STOCK リーグに取り組む中で印象に残っていることは、企業へのアンケート調査が思うように進まず、必死に電話をかけたり、財務分析をしたりした後、データをまとめる作業に時間を取られ、一つのレポートの形になったのが提出期限ギリギリで、データ送信したとき、生徒と拍手したことなど、指導するというよりも一緒に伴走したような思い出ばかりです。

また、授賞式に臨んだ生徒たちが大学生にも劣らないプレゼンテーションをする姿が頼もしくて、誇らしい気分になったこともとても良い思い出です。

参加を終えて

5 年前の転勤をきっかけに、日経 STOCK リーグへの参加を見送っていた時期がありました。しかし、1 年間真剣に取り組んだ生徒の姿が忘れられず、今の学校でもチャレンジしてみたいという思いにかられるようになりました。有志の生徒を募り参加しようと努力しましたが、なかなか上手くいきませんでした。そのため、商業科目を選択している生徒を集め、ビジネス研究同好会を立ち上げ、

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

部への昇格を果たし、ようやく参加できる土台を作りました。今後も日経 STOCK リーグでの学びを通じ、生徒が成長できるよう支えていきたいです。

第 18 回 NOMURA Award（特別協賛社賞）受賞者コメント

福島県立若松商業高等学校 渡部 昇司教諭

受賞コメント

日経 STOCK リーグ参加の経緯

十数年前に、総合実践という科目で株式を取引するのに、日々の株価が変化することが学べる、この日経 STOCK リーグが便利で参加しました。また、学校が変わった後も、課題研究の科目の中の投資というテーマで、日経 STOCK リーグのレポート作成を目的として参加しています。

日経 STOCK リーグの取り組みについて

株式についての知識が乏しい生徒なので、株式についての知識を 1 学期で学習し、2 学期は財務分析の中から、投資分析と企業の資本を中心に企業分析を学習してから、株売買やレポートにチャレンジしています。当初は自分達の知っている企業が中心でしたが、今はネットで良いと思われる企業をさがして幅広い企業になっています。

参加を終えて

指導初心者の私でも、講師派遣や数多くの資料を提供いただくなどのサポートにより、今回、1 次審査まで通過することができたことに感謝いたします。来年度もぜひ参加したいと思います。

第 18 回 NOMURA Award（特別協賛社賞）受賞者コメント

近畿大学 相馬 利行 教授

受賞コメント

日経 STOCK リーグ参加の経緯

株でお金儲けはできるのか？をテーマに講義したところ、学生からとても多くの質問が来ました。このことから、学生は株について（お金儲けについて？）とても興味が有るんだなと思うようになり、株をテーマにしたゼミを開きました。そして、日経 STOCK リーグのことを新聞で知るとすぐに参加しました。ゼミの募集時に、株で楽に稼げる方法を学ぶゼミではないこと、私もその方法は知らないことを正直に強調した上で、毎年楽しく取り組んでいます。

日経 STOCK リーグの取り組みについて

日経 STOCK リーグには、前任校の京都学園大学と近畿大学において、主に 3 回生の後期に参加してきました。3 回生の前期には、まず、前年度の入賞論文を読んでもらいます。近年の大学部門では、効率的フロンティアを計算したり、計量経済学の手法を用いたチームが入選していたりと、現時点での自分達に足りない知識が如何に多いかに気付いてくれます。すると、後期の日経 STOCK リーグまでにしなければいけない課題がより明確になり、小難しい数式やエクセルの計算も、日経 STOCK リーグのためと思って頑張ってくれるようになりました。

参加を終えて

まずは、このようなすばらしい取り組みを長年に渡り提供して頂いている野村ホールディングス・日本経済新聞社・関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。

長年参加してきて良かったと思うことは、自分達で投資テーマを決め、自分達で購入する銘柄を決めることを要求されるため、ゼミ生同士のコミュニケーションが大変活発になったことです。ネットカフェ難民をテーマにした班は、気持ちを知ろうと、実際に皆で泊まりに行っていました。

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

第 18 回 NOMURA Award（特別協賛社賞）受賞者コメント

中京大学 吉田 康英 教授

受賞コメント

日経 STOCK リーグ参加の経緯

参加のきっかけは、日本経済新聞に掲載された日経 STOCK リーグの案内でした。参加の狙いは、とにかく大学（ゼミ）生に経済や企業の動向に興味を持ってもらいたい、そのためには常日頃から新聞等を読んでもらいたい、それを通じて大学で学ぶ授業の重要性や関連性を理解してもらいたいと思った次第です。また、大学に移るまでは金融機関に勤務（かつ公認会計士）経験があり、証券・金融市場の面白さをリアルに伝えたかったことも参加の目的でした。

日経 STOCK リーグの取り組みについて

日経 STOCK リーグの取り組みを通じて、就職希望先の業界や企業に対する学生の意識が変わることを感じます。それまでは、限られた知識の中で馴染み（聞いたこと）がある業界や企業しか思い浮かばなかった学生が、日経 STOCK リーグを通じて知見が広がり、大きな視野で就職希望先の業界や企業を捉えられるようになったことです。特に大学がある東海圏は、知名度が低いが優良な物作り企業も多く、その意味で学生のキャリア教育にも役立っています。

参加を終えて

参加してよかったことは、日経 STOCK リーグは学生主体のグループワークであり、自らテーマを設定して活動を通じて学ぶアクティブ・ラーニングである点です。また、その結果をレポートとして提出することで、「読み手を意識して書く」という学習も加わることも良い点です。ただし、1、2回の授業ではないことから、全ての参加チーム（5人編成の5チーム）を完走させるためには、教員側の適切な事前・事後管理が必要になります。

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

第 18 回 NOMURA Award（特別協賛社賞）受賞者コメント

武蔵大学 徳永 俊史 教授

受賞コメント

日経 STOCK リーグ参加の経緯

初めて参加したのが 15 年ほど前で、はっきりとした記憶はありませんが、ゼミ生が「このようなイベントがあるので参加したい」と声を上げたのが参加のきっかけでした。私も実務界から大学へ移籍して間もなかったため、理論と実務の橋渡しをどのように教えればよいのか迷っていたところへこのような話を聞いたので迷いなく指導を引き受けました。さらに、ゼミ生全員に聞いたところ皆参加したいということが分かり、ゼミ活動の一環として取り組むことになりました。

日経 STOCK リーグの取り組みについて

最初の参加から勤務大学が変わったこともあり、ゼミにおける日経 STOCK リーグの位置づけも大きく変わりました。現在の大学では、一大イベントとして冬に学内のゼミ対抗発表会があるため、(1)スケジュールが一致している、(2)テーマを決めてグループで分析をするスタイルが一致している、(3)第三者に審査される点が一致している、などから一石二鳥の考えで取り組んでいます。

参加を終えて

上記で述べたように、学内のイベントと平行して行っていることで目標が明確になるというメリットがある一方、発表会が 12 月に終わった後、日経 STOCK リーグのレポート作成時に余力が残っておらず、期待している以上のレポートが作成できない点は今後の課題としたいと思います。

1 つお願いするとすれば、5 段階評価で構いませんので、いくつかの評価基準（構成、基本分析、テーマ設定等）でレポートを評価して頂けると次年度の励みになるかと思えます。

<http://manabow.com/sl/result/index.html>